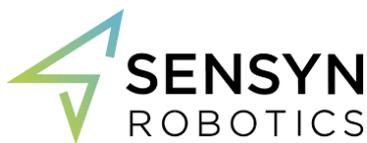


News Release



報道関係各位

2019年9月30日
株式会社センシンロボティクス
株式会社エアロネクスト

センシンロボティクス、エアロネクストと産業用ドローンの 「空飛ぶロボット(Flying Robots)」化に向け戦略的業務提携

設備点検・災害対策・警備監視の領域を中心にドローンによる業務の完全自動化を目指す株式会社センシンロボティクス（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：北村卓也、以下センシンロボティクス）と株式会社エアロネクスト（東京都渋谷区、代表取締役 CEO：田路 圭輔、以下エアロネクスト）は、産業用ドローンの次世代コンセプト「空飛ぶロボット(Flying Robots)」の具現化に向け顧客・用途開発に関する戦略的業務提携をすることをお知らせいたします。



写真向かって左より、エアロネクスト代表取締役 CEO 田路圭輔、
センシンロボティクス代表取締役社長 北村卓也

【業務提携内容】

センシンロボティクスとエアロネクストは、相互のノウハウ・技術を駆使し、産業用ドローンの次世代コンセプト「空飛ぶロボット(Flying Robots)」の具現化に向けた顧客・用途開発に関する戦略的業務提携を目的とする、業務提携契約を締結し、共同して企画・研究・開発・整備・設計・運用をいたします。

【提携の背景】

日本が抱える社会課題として、少子高齢化による労働人口の減少や高騰する人件費、危険区域での作業者の安全確保などが挙げられます。産業用ドローンは、これらの課題を抱える「物流」、「農業」、「警備」、「設備点検」、「災害対策」といった様々な分野での活用が期待されています。

News Release

一方で、ドローンは写真や動画を撮るといふ、いわば「人間の目」としての用途のみに利用されており、短時間、短距離、また良好な気候条件の時のみという限定的な条件下での使用が現実的な状況です。

現在の産業用ドローンが「空飛ぶカメラ」領域であるとすれば、次世代の産業用ドローンに求められるのはその機能を活用して人間の代わりに複数の何らかの仕事を行う「空飛ぶロボット (Flying Robots)」であり、自動航行プラットフォーム『SENSYN FLIGHT CORE』と重心制御技術『4D GRAVITY®』搭載の産業用ドローンを組み合わせることで、次世代コンセプト「空飛ぶロボット (Flying Robots)」を現実化できるという両社の考えが一致し、今回の提携に至りました。

センシンロボティクスは日本が抱える社会課題に対して、自動航行プラットフォーム『SENSYN FLIGHT CORE』を中心とした「ドローンの操縦や撮影された映像の確認作業を行うためのオペレータ (人力) の不足」や「その育成・確保にかかる工数」といった問題を解決するための様々なドローンソリューションを展開しています。

エアロネクストが展開する重心制御技術『4D GRAVITY®』搭載の産業用ドローンは、複数のペイロード搭載や、ペイロードの位置が側面や上部に搭載しながらも安定的な飛行が可能であり、またその安定性によるエネルギー効率の改善により長時間、長距離の飛行を可能にすることから、一度の飛行中に「写真や動画を撮る」だけの単一作業だけでなく複数の仕事を実施することができます。つまり、重心制御技術「4D GRAVITY®」搭載の産業用ドローンだからこそ、次世代コンセプト「空飛ぶロボット (Flying Robots)」を現実化できるのです。

産業用ドローンの「空飛ぶロボット (Flying Robots)」化

一度の飛行中に「写真や動画を撮る」だけの単一作業だけでなく
複数の仕事の実施可能な、空で働く「ロボット」化で生産性や効率性の向上が可能。

↓

既存のドローンソリューションの想定外の、あるいは既存ドローンでは対応困難な新たな活用用途に向けた
ドローンソリューションの共同開発・提案



SENSYN
ROBOTICS

×



AERONEXT

- ドローン自動航行プラットフォーム「SENSYN FLIGHT CORE」を中心とした顧客向けサービスの提供
- 実績に基づくドローン活用用途開発やソリューション提案

- 高い安定性によって効率性、生産性を向上する重心制御技術「4D GRAVITY®」搭載産業用ドローン
- ライセンスとパートナーシップによる国内外での複数のサプライチェーン

センシンロボティクスが得意とする送電線、鉄塔、ダムなど広域にわたる社会インフラの保守・点検分野において、既存の産業用ドローンでは対応できなかった複雑な用途で『4D GRAVITY®』搭載ドローンを活用することで、センシンロボティクスの保有する顧客の具体的な要望に応じた提案・開発を行うことが可能になります。

センシンロボティクスとエアロネクストは、相互の技術と顧客・用途開発のノウハウを組み合わせ駆使することで、力を合わせ産業用ドローンの次世代コンセプト「空飛ぶロボット (Flying Robots)」の具現化し、顧客の課題、ひいては社会課題の解決と「ドローン前提社会の実現」に貢献してまいります。

News Release

【SENSYN FLIGHT CORE とは】

『SENSYN FLIGHT CORE』とは、特別な知識や技術がなくてもドローンによる業務自動化を簡単に実現させる総合プラットフォームです。簡単なフライト設定を行えるだけでなく、フライトプラン・実績データの一元管理、複数機での同時飛行や様々なメーカーのドローンへの対応、UTM*への接続など、業務の自動化に不可欠な充実した拡張機能を備えています。

*UTM…無人航空機管制。Unmanned Aerial System Traffic Management の略。

【重心制御技術『4D GRAVITY®』について】

機体の重心制御技術『4D GRAVITY®』はドローンの飛行姿勢や動作に応じて重心位置を最適化させる一連の技術の総称で、厳しい気象条件に対応し、高い機動性や燃費の向上に貢献する、次世代ドローンに必須の技術です。

エアロネクストの独自の重心制御技術『4D GRAVITY®』は、UAVにおける機体の構造を根本的に見直し開発したもので、従来のドローンでは実現できなかったその安定性、信頼性で産業用ドローンの用途範囲を大きく拡大します。既に360° VR撮影ドローン『Next VR™』、水平輸送用ドローン『Next DELIVERY®』、次世代産業用ドローン『Next INDUSTRY®』、ピンポイントランディング対応VTOL宅配ドローン『Next VTOL®』等、『4D GRAVITY®』搭載の産業用ドローン『Next』シリーズの原理試作を複数種類発表しています。また、量産化に向けて農業機械製造大手の小橋工業、VAIO、中国産業用ドローンメーカーの最大手MMC等との提携により複数の経路で『4D GRAVITY®』搭載の産業用ドローンの供給が可能な体制を整えています。

【株式会社エアロネクスト とは】 <https://aeronext.co.jp/company/>

UAV（無人航空機）やマルチコプターの機体フレームのあるべき姿を実現する、ドローン・アーキテクチャ研究所です。安定性、信頼性を向上させる独自の重心制御技術4D GRAVITY®を産業用ドローンの標準技術にするために強固な特許ポートフォリオを構築し、4D GRAVITY®テクノロジーライセンスビジネスのグローバル展開を推進しています。

【センシンロボティクスについて】 <http://www.sensyn-robotics.com>

2015年10月の設立以降、『ロボティクスの力で、社会の「当たり前」を進化させていく。』をミッションに掲げ、ロボティクスの力により業務の完全自動化を実現することで、設備点検、災害対策、警備・監視を中心とする様々な領域における、目の前に差し迫った具体的な社会課題に対してチャレンジを続けていきます。

DaaSとは…Drone as a Service の略。顧客はドローンを購入することなく、センシンロボティクスのドローンソリューションをサービスとして利用することが可能です。ドローン導入・運用コストの低減やメンテナンス・アップグレード作業からの解放といったメリットがあります。

本社所在地：東京都渋谷区恵比寿二丁目36番13号 広尾MTRビル7階

設立：2015年10月

代表：代表取締役社長 北村卓也

【報道関係のお問い合わせ先】

経営管理部 広報担当：妹尾

TEL：03-5488-6106 E-mail：m-senoo@sensyn-robotics.com

広報窓口：武田／小金丸

TEL：090-3102-3659 E-mail：pr@sensyn-robotics.com

株式会社エアロネクスト 広報部（担当：伊東）

Tel：03-6455-0626 Email：info@aeronext.blue